



夏の参院選の投票所を見学・調査し、若者の投票率向上策を検討 追手門学院大学と茨木市選挙管理委員会が連携協定

今夏の参議院選挙を前に、6月15日、追手門学院大学（略称：追大、大阪府茨木市、学長：真銅正宏）と茨木市選挙管理委員会（委員長：角野一雄）は、若者の投票率を高める方策の検討や主権者教育を推進する連携協定を締結しました。

茨木市選挙管理委員会が大学と連携協定を結ぶのは今回が初めてです。

追大は、教育コンセプトにOIDAI WIL（Work-Is-Learning/行動して学び、学びながら行動する）を掲げ、実社会の課題に対して、実践的な行動を通して学び、課題解決を目指すプロジェクト型の学修を推進しています。

今回の協定により、主権者教育の実施を通して、学生の選挙や政治への関心を高めると共に、授業のテーマで「若年層の低い投票率」を社会課題として取り上げ、学生視点で解決策を検討し、選挙管理委員会に提案する取り組みを進めます。

締結に先立って5月12日には、プロジェクト科目を履修する28名の学生が、茨木市選挙管理委員会の職員から、日本の選挙制度と投票率の現状について説明を受けました。加えて、これまでの取り組みとして「人がたくさん集まっているところに投票箱を」という考え方のもと、市内の4つの商業施設に期日前投票所を設置し、期日前投票数の約7割が商業施設で行われたといった事例の紹介もありました。

また、参議院選挙の公示後には、イオンタウン茨木太田に設けられる期日前投票所を見学し、有権者へのヒアリング調査などを通して、実際の選挙の様子や過去の事例も踏まえながら、7月14日の最終授業で若者の投票率の向上につながる施策を検討し、茨木市選挙管理委員会に提案する予定です。



茨木市選挙管理委員会から説明を受ける学生ら

【ポイント】

- 茨木市選挙管理委員会と大学が主権者教育の推進と若者の投票率向上を目指す連携協定を締結
- プロジェクト科目を履修する28名が、期日前投票所の視察や有権者へのヒアリング調査を実施
- 学生が若者の投票率向上につながる施策を検討し、茨木市選挙管理委員会への提案を行う

【連携事項】

- (1) 選挙に関する講義・演習等の実施
- (2) 期日前投票の見学、有権者へのヒアリング調査等
- (3) その他、主権者教育に関する活動

【最終発表会】

- 日時：7月14日（木）13:45～15:30
- 場所：追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス（大阪府茨木市太田東芝町1-1）
- 発表者：プロジェクト科目を履修する学生28名

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 谷ノ内・仲西